

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患克服研究事業））  
分担研究報告書

進行性骨化性線維異形成症例における滑膜性骨軟骨腫症の検討

研究分担者 中島康晴 九州大学整形外科 准教授

研究要旨 進行性骨化性線維異形成症（以下 FOP）における滑膜性骨軟骨腫症の合併を調査した。2 例（30 歳女性、10 歳男児）に股関節滑膜性骨軟骨腫症を認め、1 例（10 歳 男児）では片側性に極めて多数の骨軟骨腫が確認された。文献でも同様の症例が報告されており、病態に関連した合併症の可能性が示唆される。

A. 研究目的

FOP に合併する滑膜性骨軟骨腫症を調査した。

B. 研究方法

当科および北九州八幡総合病院に通院中の FOP 症例 10 例で検討した。

（倫理面での配慮）

すべての個人情報には匿名化した。

C. 研究結果

症例 1：30 歳 女性

10 歳代に確定診断された FOP 症例。初診時、すでに両股関節に滑膜性骨軟骨腫（4～5 個）が確認された。経時的に増大したが、20 歳以降の増悪傾向はなく、臨床症状もない。

症例 2：10 歳 男児

1 歳時に背部の骨化で診断された FOP 症例。7 歳までの X 線では明らかな股関節内骨化像はない。8 歳時の X 線で骨化した小腫瘤の存在が確認され、その後おびただしい数の滑膜性骨軟骨腫が確認される。ときに locking 様の症状が出現し、股関節痛

の原因となっている。

D. 考察 E. 結論

文献上は、1993 年にほぼ同様の所見を示す股関節内滑膜性骨軟骨腫の 1 例が報告されている。FOP の本態である異所性骨化ではないものの、関連する合併症の可能性があり、今後の経過観察を要する。

F. 健康危険情報  
特記事項なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし